

2023(令和5)年 1月5日(木) 14035号



株式会社日刊金属

本社 大阪市北区天満2丁目12番地3号
 ヴィレッジリバー南森町3階E号
 TEL: 06-6353-7831
 FAX: 06-6353-7832
 MAIL: metal_info_osaka@nikkankinzoku.co.jp
 WEB: <https://homenikkankinzoku.co.jp/>

購読料 12か月 77,760円 外電配信料 12か月 92,400円
 6か月 38,880円 6か月 46,200円



一般社団法人日本電線工業会

会長 伊藤 雅彦

年頭のご挨拶

皆さま、あけましておめでとうございます。電線工業会会長の伊藤です。

2023年の年頭にあたり、ご挨拶を申し上げます。

昨年のわが国の状況を振り返りますと、ウイズコロナの時代が日常生活に浸透し、感染の波は第8波にまで及んだと言われています。一方で社会経済活動は徐々に回復し、アフターコロナとは言えないものの、今年は3年ぶりに当会の賀詞交歓会を開催する運びとなりました。

2022年度の日本経済ですが、第1四半期の実質GDP成長率はプラス成長で始まり、第2四半期まで辛うじてプラス成長を維持しています。しかしながら前年度からの半導体不足や中国、東南アジアの自動車産業を始めとするサプライチェーンの混乱などは沈静化していません。下半期は、ウクライナ侵攻の影響も影を落とし、石油・天然ガスや鉄・銅・アルミなどの金属類は高値が継続するとともに、インフレ抑制のため欧米諸国が実施している利上げにより内外の金利差が拡大し円安傾向が続いており、これが物価の高騰に拍車をかけています。これらの要因が経済に水を差しており、先行き不透明感が増えています。

さて、電線業界の1年を振り返ってみます。

まず、2022年度の銅電線需要は、通信部門、電力

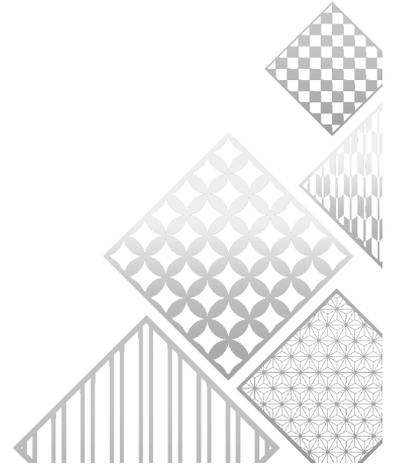
部門を除いて、前年度に比べ増加する見通しとなっております。

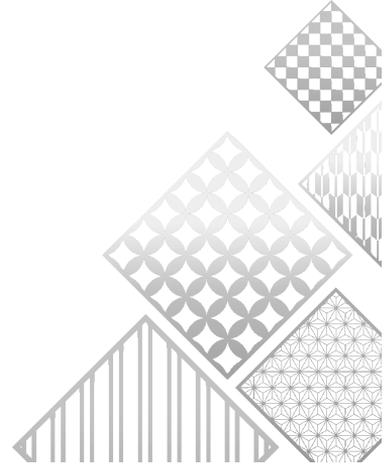
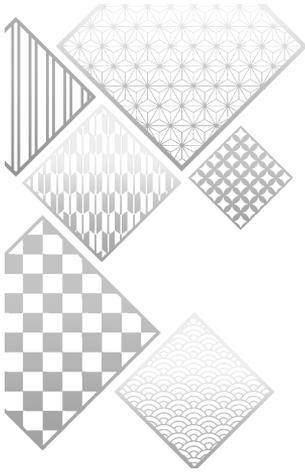
通信部門は通信インフラ環境の動きが継続し横ばいの見込みで、電力部門は、更新、再生可能エネルギー関連需要はありますが、電力会社の投資抑制により微減を予想しています。電気機械部門は、電子・通信、電装品関連に牽引され、電動化、高機能化が進む自動車部門とともに好調を維持、その他内需部門では、民間設備投資が徐々に回復することを見込み、輸出部門は、設備投資の回復や脱炭素化に向けた投資需要が継続し、増加を予想しています。需要のほぼ半分を占める建設・電販部門は、コロナ禍の影響が長期化するものの、大型半導体工場の建設、首都圏関西圏再開発等大型案件も計画され、前年度を上回ると考えています。

以上のことから2022年度の銅電線の出荷は、前年度実績比1.8%増の64万2千トンとなる見込みです。

国内向け光ファイバ需要については、5Gの普及による通信線路設備向け、データセンター、工場内ローカル5G関連需要は引き続き堅調に推移するものの、前年度比1.1%減の7百47万kmc(キロメートルコア)としました。

次に中期需要予測ですが、銅電線需要は、2021年度からの年平均伸び率プラス1.2%で、2026年度の





銅電線需要を66万9千トンと見込んでおります。電力部門では、再エネ関連や直流連系線の需要増、自動車部門は、CASEの領域で技術革新が進むこと、建設・電販部門は、大阪・関西万博関連をはじめとする各地方都市の大型プロジェクトのほか、リニア中央新幹線や整備新幹線延伸など好材料があり、今後の電線需要拡大に期待しております。

次に当会の事業活動についてご紹介します。今年も引き続き4つの重点活動テーマ、「環境問題への対応」、「中堅中小企業の経営基盤強化支援」、「グローバル化への対応」そして「商慣習の改善」に取り組みます。

本年度、特に重点的に取り組みたい2点についてお話しいたします。

まず、「中堅中小企業の経営基盤強化支援」については、当会会員の80%以上が中堅・中小企業であり、その支援は当会の重要な責務であります。一昨年来、コロナ禍のため、会員社訪問や各種会合など会員社の生の声を聞く機会を持つことが減った中で、中堅企業部会はなんとか2回の開催ができました。本年もコロナ感染への適切な対策を講じつつとなりますが、「生産性向上・デジタル化・働き方改革推進」などに関連する諸施策、支援事業の情報入手と提供を迅速に進めるとともに、中堅企業部会活動、新人・中堅教育や新人採用に関する各種セミナーの開催など中堅・中小企業会員の経営基盤強化に向けた支援を続けて参ります。

次に「電線業界のイメージアップ、ブランドアップ」についてです。ご承知のように、昨今の少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少により、人財、まさに“財産”の“財”ですが、人財獲得競争が激化し、特に製造現場での直接作業員の採用に苦戦されておられる会員社の皆さまの声をお聞きます。現状を打開すべく会員社様の皆さまのお力と、電線アンバサ

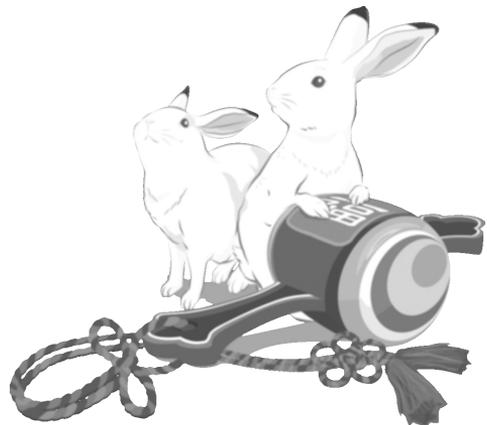


心と心をつなぐインフラへ。

“つなぐ”11月18日は電線の日

ダーの石山蓮華さんのお力もお借りして、具体的な方策を考えて電線業界のイメージアップ、ブランドアップを図って行きたいと思っております。

最後に、2023年が電線産業に携わる関係者・ご家族の皆さまにとって、実りある一年であるように祈念いたしまして、私の新年の挨拶とさせていただきます。





一般社団法人日本アルミニウム合金協会

会長 山本隆章



年頭所感

令和5年の新春を迎えるにあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様方並びに関係各位の皆様におかれましては、本協会の運営に際し、ご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は、ロシアのウクライナ侵攻などにより、ロンドン金属取引所(LME)のアルミ相場が年初にトン2800ドル台であったものが3月には一気に3900ドル台まで上昇し、為替が1月に1ドル115円だったものが急速な円安で10月に150円台になり、これらの影響が国内のアルミ相場に及ぶ厳しい状況となりました。

アルミ二次合金の需要を支えてきた我が国の自動車メーカーの国内生産は、半導体などの部品不足の制約による影響を受け、当協会の生産統計においてもアルミ二次合金生産量は、昨年8月まで12カ月連続で前年同月の水準を下回っていましたが、8月に自動車生産に回復の兆しが見え、二次合金生産は9月にプラスに転じ、翌10月もプラスを維持しました。しかし、制約は今も継続しており、需要の盛り上がりは欠く1年となりました。

一方で、当業界の経営面では、会員各社は原料高をはじめ、エネルギー価格や電力代の上昇の影響を強く受けており、製品販売価格への転嫁が急務となっています。

令和5年につきましては、世界の景気は緩やかな持ち直しが続いておりますが、金融資本市場の変動や物価上昇、供給面での制約等によるリスクを抱えております。アルミ二次合金の需要は、自動車生産の回復の動きに合わせて上向きで推移することを期待していますが、需要が立ち上がるタイミング次第ではスクラップや二次合金の需給が急速に引き締まる可能性もあります。

近年、カーボンニュートラルへの取り組みから再

生アルミに対する関心が高まっています。自動車のEV化の進展では、鋼材からアルミへのシフトも予想されており、アルミ二次合金のニーズは今まで以上に高まると考えています。当業界としても、車体部品や足回り部品等への用途拡大のため、引き続き新たな材料開発などに取り組んで参ります。

また、事故のない安全な作業の実施により、安定した操業を維持することが重要であり、労働力確保のためにも安全安心で魅力ある職場作りに努めることが必要と考えます。

地球環境保全が人類に必須かつ喫緊の課題となっている中で、国内で発生するアルミスクラップを二酸化炭素排出削減に寄与する重要な基礎素材であるアルミ二次合金として安定供給することにより、資源循環の一翼を担い、近年注目されているアルミ水平リサイクルにも貢献する当業界の果たすべき役割と責任の重大性は揺るぎないものと確信しているところです。

協会と致しましては、引き続き、経済や環境対策などに関する施策や関連する情報の早期の収集、伝達に努め、個別企業では対応が困難な諸問題に取り組んで参る所存です。

最後になりましたが、関係各位の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げるとともに、皆様のますますのご発展とご健勝を祈念いたしまして私の年頭の挨拶とさせていただきます。





一般社団法人 軽金属製品協会

会長 入山 豊

SDGs 達成への貢献が会員と業界の発展を約束する

明けましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルスのまん延による市場の縮小・減退からの回復の兆しがようやく見えて参りました。しかし、ロシアによるウクライナ侵攻などによる国際政治経済の不安定化とアメリカでの金利上昇にともなう急激な円安の進行によって、アルミニウムや薬液などの原材料価格の一層の上昇に加え、電力・ガスなどのエネルギー価格の高騰は年が明けても留まることなく継続しております。

今年は、いよいよアフターコロナで、世界と日本の経済活動・社会活動が本格的に回復・再生し続けられると思われ、サービス業・観光業などでは大いに期待されています。一方で、昨年来の国際政治経済の不安、調達難、原材料・エネルギー高、円安などは大きな重荷として、会員各企業の皆様の経済活動、ひいては業績に多大な影響を与え続けるものと思われれます。

そうした中で、軽金属製品協会はそのような困難に立ち向かっている会員の皆様の経営を支援しつつ、業界全体の行く末に安定と発展をもたらせるように今年も最大の努力を重ねて参ります。

「2030年に向けた持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に貢献することが、会員各企業と業界の将来の発展を約束する」という思いを、軽金属製品協会は強く持っています。その思いを会員各企業の皆様と共有し、現今の事業環境の改善と将来の経営基盤の構築に向けて、官公庁との連携や関係団体との協力関係の強化、さらには協会そのものの再編・再構築にも踏み込んで参りたいと考えております。

最後に会員企業の皆様および関係各位が、大きな視野と高い視座を持って、苦しさを乗り越える中で、ピンチをチャンスに変え、事業の発展と将来への基盤づくりを進められることを祈念して、新年のあいさつとさせていただきます。



ジンバブエ：ジンバブエのリチウム輸出禁止令が施行

2022年12月19日付けメディアによると、政府はクリーンエネルギー革命の恩恵を受け、自国内での高付加価値化を可能にするため、リチウム原料の輸出を禁止した。

Emmerson Mnangagwa大統領はリチウムの国外流出に不満を表明しており、ジンバブエはリチウム原料の輸出で数mUS\$を損失しているという。

Winston Chitanda鉱山鉱業開発大臣は、ベース鉱物輸出管理法 (Base Minerals Export Control Act) 第3条 (1) (a) を通じて、大臣の書面による許可のないリチウム鉱石・未選鉱のリチウムはいかなるものであれ輸出を禁ずるという法令文書を官報に掲載した。

2022年12月20日付けメディアによると、ジンバブエ鉱山連盟 (ZMF) は、ジンバブエの鉱石輸出禁止を

支持した。

同国では鉱業セクターを2023年末までに12bUS\$の産業にするという目標を掲げており、鉱石の輸出は歳入の損失の面から有害であり、政府に不利益を与えているとしている。

ZMFは、Henrietta Rushwaya会長を通じて、リチウム原料の輸出は、リチウムのサブセクターにおける深刻な現地雇用喪失を引き起こし、本来ジンバブエ人であるべき雇用が他国での雇用となり他国の利益となっていると述べた。

ZMFは、リチウム原料の輸出禁止は現地雇用創出につながり、地元の専門家に技術が移転され、それによってジンバブエのグリーンエネルギーの未来が創造されると述べている。

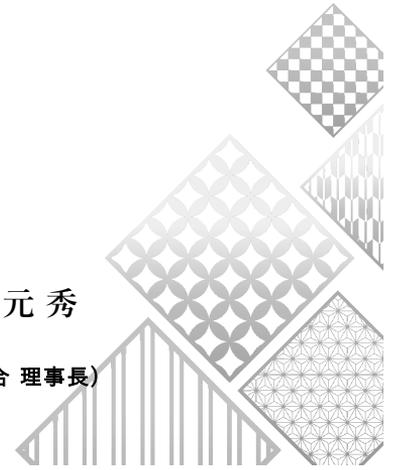
<https://nikkankinzoku.co.jp/>
PW: nikkin202301



全日本電線販売業者連合会

会長 西村 元秀

(関西電線販売業協同組合 理事長)



新年明けましておめでとうございます。旧年中は我々の組合員であります全国の電線販売業者へのご支援ご協力に心より感謝申し上げます。本年も何卒ご指導ご鞭撻いただけますよう、よろしく願い申し上げます。

さて、電線業界全体を取り巻く環境は、ここ数年で大きく変化してまいりました。昨年の急激な円安の影響も含めての銅相場の高値推移継続、一部の電線太物ケーブルの品不足問題、電力を中心としたエネルギーコスト上昇、運賃値上げや人件費上昇等々です。我々電線の流通を担う業界でも、メーカー各社とお客様の間に立って様々な企業努力を日々続けてまいりましたが、それでも吸収しきれないところにつきましても、組合員各社の判断で必要な改善をお願い申し上げているところです。

5年前に日本電線工業会で作成されました取引適正化ガイドラインは、業界の本来あるべき姿を示しており、長期的には、より良い社会の構築になるものと判断しております。そして、このような時期でこそ、あらためてその真価が問われてくるものと理解しております。我々も引き続きコンプライアンス遵守を徹底して、このガイドラインを進めて行く所存でございますので、ご理解の程よろしく願い申し上げます。

さて足元の景気のことになりますが、幸い新型コロナウイルス感染拡大も、第8波の懸念も一部でありますが、ようやく終盤に入ってきたように思われます。ロシア・ウクライナ進攻につきましても、現時点では終結の兆しはまだ出ておりませんが、すでに復興需要のことも取り上げられております。和平を心より願うとともに経済復興支援での日本の出番も近いのでは思っております。

経済全般的には人の流れが戻ってきたことでの国内の消費が上向き、製造業の国内回帰などにより、

設備投資も力強く回復してまいりました。社会のインフラを支える電線流通業の使命として、これから更に仕入先様、お客様としっかりと連携して、先の需要に対応していきたいと思っております。

具体的には半導体、工作機械、自動車EV関連と新しい設備投資の流れが進んでいくものと思われえます。不足していた半導体もようやく自動車の方にも回ってくるのが予想され、繰越需要の押し上げ効果に期待したいと思います。

また、東京、大阪、名古屋、福岡、札幌などの主要都市での再開発も動き出しています。関西では2025年の大阪・関西万博、そしてそれに続くIRカジノ建設などがこれからより具体化してくるものと思われえます。コロナ収束になればインバウンド需要の回復も期待できます。アフターコロナの象徴となるデジタルトランスフォーメーション、カーボンニュートラルは、いずれも電線業界にはポジティブなものとなり、さらなる成長が期待できるもの思われます。再生エネルギー拡大への送電線網配備も待たなしになるものと思われえます。

さて今年の干支は卯（うさぎ）です。うさぎは月の使いとも言われ「ツキを呼ぶ」縁起の良い動物だそうです。皆様方にとって本年が素晴らしい年になることを心より祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



11月推定出荷量

前年比 マイナス3.8%

10月実績 再びマイナス

日本電線工業会

一般社団法人日本電線工業会(伊藤雅彦会長)はこのほど、国内銅電線の11月推定出荷量と10月実績を発表した。11月推定は合計55,600トン、前年同月比はマイナス3.8%。全7分野のうち同比プラスは、建設・電販や電気機械の2分野だけとなっている。実績では、8月から2か月連続プラスだったが、再びマイナスに転じた。



11月推定で同比プラスの建設・電販は27,600トン同0.8%、電気機械は11,900トン同0.1%。同マイナスは、自動車が7,500

トン-8.4%、電力3,800トン-12.4%、その他内需3,400トン-15.8%、輸出800トン-31.1%、通信600トン-26.1%。内需計は54,800トン-3.3%とみられている。

また、10月実績は合計53,575トンの同3.1%マイナス。7分野のうちプラスは電気機械の11,518トン0.4%、自動車7,175トン17.4%。内需計は53,575トン-3.1%だった。10月実績の品種別一覧と出荷推移は表の通り。

訃報

元執行役員 気仙伊作氏が死去

三菱マテリアル株式会社はこのほど、元執行役員の気仙伊作(けせん・いさく)氏が昨年12月20日、ALS(筋萎縮性側索硬化症)のため死去したことを公表した。享年68歳。1976年、三菱鉱業セメント株式会社入社、2010年6月から12年6月まで、執行役員兼セメント事業カンパニーバイスプレジデント兼セメント事業カンパニー営業統括部長。

Table with columns for month, tonnage, and various product categories like 通信, 電力, 電気機械, etc. Includes year-to-date and monthly comparison data.

主要部門別出荷表(2022年10月分実績-11月分推定)

Table showing shipping data by department (通商, 電力, 電気機械, etc.) with columns for 10 months and 11 months (actual vs estimated).



鉛滓・鉛管板屑

株式会社 國樹商店

〒556-0011 本社 大阪市浪速区難波中1-16-8
電話 06-6649-0045 代表
〒556-0011 工場 大阪市浪速区稲荷1-11-5
電話 06-6561-7331~2

二次地金同合金地金11月

生産・出荷とも
前年比3か月連続のプラス

日本アルミ合金協会

一般社団法人日本アルミニウム合金協会(山本隆章会長)はこのほど、2022年11月の二次地金同合金地金等生産実績を発表した。生産(自家・受託合計)は67,771トンで前年同月比101.9%、出荷(販売・その他合計)は67,722トンの同103.0%。生産・出荷の同比はいずれも、9月に13か月ぶりにプラスとなり、11月は3か月連続プラスとなった。前月比でみると、生産は102.8%、出荷は101.7%となっている。

産業部門別出荷(二次地金同合金地金同ピレット等)の前年同月比は、全8部門(粉除く)のうち鋳物とダイカスト、合金地金メーカー向けはプラスだったが、板や押出などはマイナス。ポイントの幅は、鋳物のプラス11.1か

ら「その他」のマイナス68.5となっている。

減摩合金・各種ハンダ
鉛滓・錫滓の精錬

中川金属精錬所

代表者 中川 譲 治

〒556-0022 大阪市浪速区桜川1-6-22
TEL 06-6561-3759(代表)

アルミニウム二次地金同合金地金等生産実績(1)

(一社)日本アルミニウム合金協会

Table with 3 main sections: 1. 地区別製品生産, 2. 品種別製品生産, 3. 産業部門別出荷. Includes columns for production, consumption, and sales across various regions and product types.

アルミニウム二次地金同合金地金等生産実績(2)

(一社)日本アルミニウム合金協会

Table titled '4. 原料消費量' showing raw material consumption by region and product name, including columns for inventory, production, and sales.

海外非鉄金属相場

(12月29日 入電・現地 12月28日)

1ロット=銅、鉛、亜鉛、アルミは25トン
錫5トン、アルミ合金20トン、ニッケル6トン
セツルメント=現物・前場・売

Table with columns for metal types (銅AG, 錫HG, 鉛, 亜鉛SHG, アルミHG, アルミ合金, 北米特殊アルミ合金, ニッケル) and rows for current prices, previous prices, and high/low values.

Table for NY Comex market (NY コメックス相場) showing prices for Gold, Silver, Platinum, and Palladium with various contract terms.

Table for LME (円ベース/キロ) and COMEX prices for various metals like Copper, Tin, Lead, Zinc, Aluminum, and Nickel.

Table for Free Market (フリー・マーケット) including US Producer Prices (米国生産者価格) and London Market (ロンドン相場) for various metals.

Table for KLT M Tin (MYR/KG, 出来高トン) showing prices for 28th and 29th days.

Table for LME Inventory (LME 在庫) showing current and change in inventory for Copper, Tin, Lead, Zinc, Aluminum, and Nickel.

Table for Shanghai Inventory (上海在庫) showing current and change in inventory for Copper, Aluminum, Zinc, Lead, and Nickel.

Table for LME Pre-market (LME プレマーケット) showing prices for Copper, Tin, Lead, Zinc, Aluminum, and Nickel.

Table for Shanghai Market (上海相場) showing prices for various metals with 1-ton lot and 5-ton lot values.

Table for Procurement Prices (採算価格) showing prices for various metals based on different exchange rates and market types.